



丹波宿のマップ
丹波宿の入口に掲示されていて、
街道歩きには非常にありがたい。



丹波宿高札場



丹波島宿問屋兼脇本陣



丹波島の渡し碑



善光寺常夜燈(両側にあり)



川萱山 川萱上人と石堂丸



北野文芸座



善光寺宿本陣藤屋



善光寺
7年に1度の御開帳は5月末まで、
19時前のため人は少なかった



西宮神社

今日は善光寺に着くまでに、2ヶ所ほど道を間違え1時間以上ロスをしたため、夕暮れ迫る時間となってしまった。
今日の目的地新町まではまだ4km程あるが、明日の行程を考えるとどうしても新町まで行っておきたいので、1時間弱暗闇の中をただひたすら歩き、20時前にやっと旅館に着いた。

今日歩いた距離(寄り道・迷い道を含む)約38km

第7日目(5月14日)北国街道(新町～田切)



新町宿本陣問屋と高札場跡



稲積一里塚
ここも両塚ともあり原形を留めているが街道からは大分離れている



明治天皇田子御小休所
明治11年9月北陸御巡幸の折、明治天皇がここで御小休された。
この大門は飯山城の裏門を千曲川を舟で運び移築されたもの



丹霞郷より北信五岳を望む
街道からは少し離れるが眺望が素晴らしいとのことで花の時期は過ぎているが、是非寄って見たかった。天気も良く、花の時期は過ぎているも本当に素晴らしい。



良い出会いがありました
リンゴの摘果の手を休め、ここ丹霞郷のこと、香川の牟礼町とここ旧牟礼村が友好自治体であって交流のため香川にも行ったこと。向こうにある丹架橋のモニュメントはその香川の牟礼にある庵治石でできている等々のお話しをお聞きした。



三本松
奉公に出る小林一茶少年がここで父と別れた



牟礼宿鎌問屋
古問鎌の問屋をしていた山本家



牟礼宿土王坂 西の枡形



武州加州道中境碑
江戸と金沢の中間地点



小玉坂
 険しい坂道が続くが、旧道の趣がよく残っている



小古間からの眺望
 妙高山が前方にくっきりと見える



一茶が晩年を送った土蔵
 65才の夏に旧宅は火災に会い、そのごこの土蔵で過ごしていたが、その年の秋にこの土蔵で生涯を閉じた



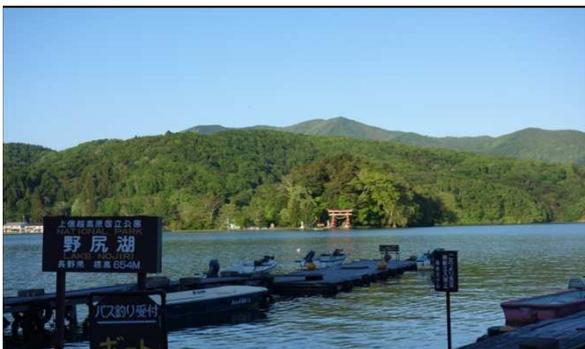
柏原宿本陣跡
 往時は御門や御殿が設けられ、御殿の天井は加賀藩の紋所「梅鉢」で飾られていた



村の鍛冶屋の原形を残す中村家



野尻一里塚
 ここも両塚とも原形を留めている



野尻湖
 琵琶島には上杉謙信の姉婿長尾政景に謀反の疑いありと、野尻湖に誘い出し、共に湖底に沈んだとの逸話のある琵琶城主宇佐美定行の墓がある



野尻宿金蔵跡

佐渡で採掘された金銀は、3日目に野尻に着きここに保管され、翌日牟礼に向け輸送された



スノーシェード

本来の旧道はスノーシェードで分断されているため、ここを通る



関川の関所

信濃と越後の境にあり、佐渡の金銀を運ぶことでもあり、関所の内でも重き関所となっていた。残念ながら5時前のため歴史の道情報館は閉館していた



関川宿本陣跡

北陸巡幸の折、明治天皇はここで泊まれた



スキー神社

日本で唯一のスキー神社



白田切川左岸に旧道？

白田切川に下りる道が残っている

本日はこの先の郵便局の前で、今夜の宿ペンション山ぶどうさんのご主人に迎えに来て頂いているはずであったが、突然地元上越タイムズ記者の取材を受けた。ビックリ。お聞きすると、宿のご主人から、軽井沢の方から北国街道を歩いてくる人が、今夜泊まるとの情報できたという。詳しくは宿でのご主人の迎えの車でペンションに向かい、取材を受ける事となった。

ペンションに着き、街道歩きの動機は、歩いた街道はどのような所か、街道歩きの魅力は等々取材を受けた。予期しないことで本当にビックリでしたが、これも旅の醍醐味、人との出会いであり、そして、良き土産話となった。この様な機会を作ってくださいましたご主人、そして気さくでおいしい手料理を作っていた奥様、お二人に感謝感謝でした。なお、ご主人も歩くことが好きで、善光寺まで歩いたという。

今日歩いた距離(寄り道・迷い道を含む)約38km

第8日目(5月15日)北国街道(田切～高田)



ペンション山ぶどうご主人と奥様
大変お世話になり有難うございました。



ペンション山ぶどうさん近くからの
妙高山と白田切川



田切古道入口
郷田切川手前に旧道が残っている。帝石パイプラインは通っているが、橋は無く通れない。向こう岸にも旧道がある。



二俣宿脇本陣跡



御館の乱の無名戦士の墓
上杉景勝と景虎の跡目相続戦



通行止

この先に大田切清水があるので、何とか通りたいが万事休すか？ 中に入り現場事務所の方に事情を話すと、一緒に出口まで案内いただいた。感謝。



大田切清水

今でも飲用水として飲めるようで、ポリタンク何個にも清水を入れている方がいた。料理やコーヒーに使うとか。昔の旅人が喉を潤した清水を飲んでみた。おいしかった。



消火栓の位置が非常に高い(小野沢)
この辺りは雪の量が半端ではなさそう



関山宿泉地藏尊



関山宿関山神社
関山宿はこの神社の門前町として栄えた



北沢の一里塚
片側だけが原形を留めている。
反対側は住宅で消滅



← 妙高山もやや左後方になってきたが、まだきれいな姿を見せている



二本木宿松崎宿の説明版
両宿は実質的には町続きの間宿で月の半分ずつ交代で宿場の役割を担った。



静かな佇まいの二本木宿



ここ松崎宿も静かな街並



リンゴ売りのおじさんから頂いた
おじさんは、長野から商売に来ているというが、常連客が結構いるようだった



安楽寺
二本木・松崎宿には本陣は無く、この安楽寺が本陣の役目を果たしていた



小出雲坂
この坂を最後に高田平野と別れることから越後見納の坂ともいう



飯山道道標
 新井は交通の要衝であり、こ
 より飯山への道がある



新井の町並



新井宿君の井酒造
 天保13年(1842年)創業。今晚の晩酌に
 一本購入。これもまた、歩き旅の楽しみ
 の一つ。



伊勢町口番所と一里塚
 高田城下への南入口に番所と一里塚があ
 る。旅人は馬を下り、くわえ煙草は禁止で
 あった。



高橋孫左衛門商店
 寛永年間創業の栗飴の老舗
 十返舎一九や夏目漱石が紹介。



日本一長い雁木通り
 延々と続く雁木通り。スゴイ。

今日歩いた距離(寄り道・迷い道を含む)約31km

第9日目(5月16日)北国街道(高田～柿崎)



高田城址
家康は北陸の要として、六男忠輝を城主とした。城は天下普請として伊達正宗など13大名で築城させた。



現代風の雁木通り



高田小町
明治時代に建築された町家「旧小妻屋」を再生・活用した交流施設。



5月16日付上越タイムズ紙に掲載されていた
とりとめの無い話をしたが、記者の方はさすがまとめるのが上手ですね。貴重な体験と良き旅の思い出になった。



浄興寺初め多数の寺院群
高田城の西側には寺町が有り、越後高田にはすぎたるものは犬、寺、道心、時の鐘と言われるように多くの寺院がある。



北国街道の追分道標
本町7丁目の交差点にあったが、宇賀魂神社に移設。左加々みち・右於う志う道と刻まれている。